

答 辞

桜の木が芽吹く春、ここに私達卒業生 110 名は、凜として旅立ちの時を迎えます。思い返してみれば、真新しい制服に高校生活への希望をのせた入学式から、今日この日まで積みあげてきた三年という歳月がとても早いものであったと感じさせられます。

クラスの仲間達と一丸となって取り組んだ体育祭。優勝へ向け、一つの事に熱中し、一人一人が喜びや悔しさを味わった球技祭。我桐祭や合唱祭では、個々の意見をだしあい、それをクラスの個性として、各クラスが素晴らしいモノを作りあげました。

何より、修学旅行では、初めての異国への訪問に緊張していたのを覚えています。ですが、その緊張をあっという間に忘れてしまうほどの異国文化への興味と、改めて知る事の出来る日本の良さに気づき、貴重な体験をさせて頂きました。正に、言葉だけでは語り尽くせぬほどの思い出にあふれた学校生活でありました。

そして、本校では、生徒一人一人の個性を尊重し、その個性を発揮するための場と支えを与えて下さった、沢山の心温かな先生方に出会う事が出来ました。特に、毎朝の様に学校の門を通ると迎えてくださった校長先生の挨拶と笑顔は、とても心温まる気持ちになりました。

在校生の皆さん。部活動や委員会活動と、共に過ごした時間はそれほど長くはありませんでしたが、それら全ての時間の大切さは、これからも変わる事はありません。皆さんがこれからも、この我孫子二階堂高校の名に恥じぬ誇れる生徒でありつづける事を期待しています。

そして今日、私達はこの学校を卒業します。それぞれの夢へ向かい踏み出す一步はとても不安で、今にも転んでしまいそうでなりません。ですが、私たちにはまだ未来があり、希望があり、支えとなる恩師や家族があるのだと知っています。そして、もし転んでしまったとしたら、その支えとなる人達はぜひ、「あなたが転んでしまったことに関心はない。そこからどう立ち上がるのかに関心があるのだ。」と言ってあげてください。これはアメリカ合衆国第 16 代大統領のリンカーンの言葉であります。この言葉の意味を深く理解出来る大人になれる様、私達は日々努力し、強く生きていく事をここに決意します。

本日は私達のために、このような素晴らしい卒業式を挙げて頂き心より感謝申し上げます。又、ご多忙の中ご出席くださいましたご来賓の方々にも心よりお礼申し上げます。そして 18 年間支えてくださった保護者の皆様にも、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、今後の我孫子二階堂高等学校のますますのご発展を祈りつつ、答辞の言葉とさせていただきます。

平成 27 年 3 月 5 日
卒業生代表 高宮城 ひな